

第59回富山県発明とくふう展 内容説明書 (令和3年度)

出品区分	1 企業の部 ・ 2 一般の部		受付番号	63
ふりがな	しよくようあぶらのはいたつけんはいゆのかいしゅうけーす			
作品の名称	食用油の配達兼廃油の回収ケース			
ふりがな	じゃぱんぱっく	ふりがな	ながた ひろやす	
会社名	ジャパンパック株式会社	発明者名	長田 宏泰 他 2名	
出願状況	<input type="checkbox"/> 未出願 <input checked="" type="checkbox"/> 出願済	出願番号	特許・実用・意匠 2010-032255	H22年2月17日
		公開番号	特許公開 2011-168289	H23年9月1日
		登録番号	特許・実用・意匠 第 5457872号	H26年1月17日

特徴と要点 (必ずご記入下さい)

食用油製造業者は、それを購入する食品の加工業者や飲食店の顧客に対して、従来一斗缶に充填して配達していた。その際、使用後の廃油を配達されてきた缶に移しかえて廃油回収容器として使用される事が多かった。しかし、本来完全に廃油を冷やしてからの移しかえ作業であれば問題ないが、180℃以上の高温になっている油を完全に冷やすには30分以上要し、熱い状態のまま移しかえる事が日常的に行われていた。

缶は、熱伝導率が良い事から、移し替えた缶に触れる事での火傷などのケガ・事故が多発していた事から根本的な改善が望まれていた。

昨今、環境問題等の観点から食用油の業務向け製品は従来の缶包装からピロー（袋）包装への転換が進んでおり3袋（1袋4kg入り）を段ボール箱にセットして配送される事が多い。その際に段ボール箱に廃油回収用の袋を予めセットしておく容器の開発に着手した。

通常日常で多く使用されているポリエチレン性のフィルムの融点は120℃前後であり、180℃の高熱油を入れた瞬間に穴が開いてしまう。しかし、ナイロンの融点は220℃前後であり、高温の油を入れてもフィルムが溶けない事に着目した。汎用のNy/PE性のフィルムを応用し、フィルム成膜時に構成を逆転させ、ナイロン層を内部にする事によって独自のフィルムを製造し、且つ外装の段ボールとの接着性が高いナイロン層も外側に配置する、(Ny/PE) / (PE/Ny) の独自2重袋のヒートシールを成功させ、段ボール底・底辺に配置する事に成功した。外装の段ボールは熱伝導率が悪く、触っても火傷はしない。

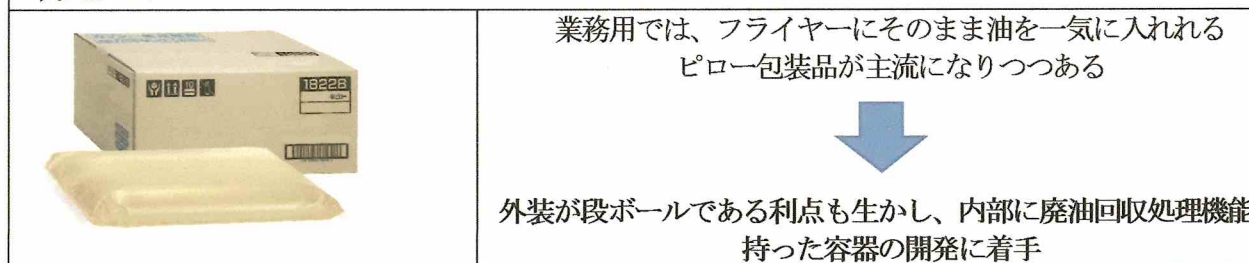
略図、図面、写真等で、簡単に特徴を記入して下さい。(※太枠内でご記入ください)

(※審査用にコピー (縮小) しますので、濃く見やすく作成してください。)

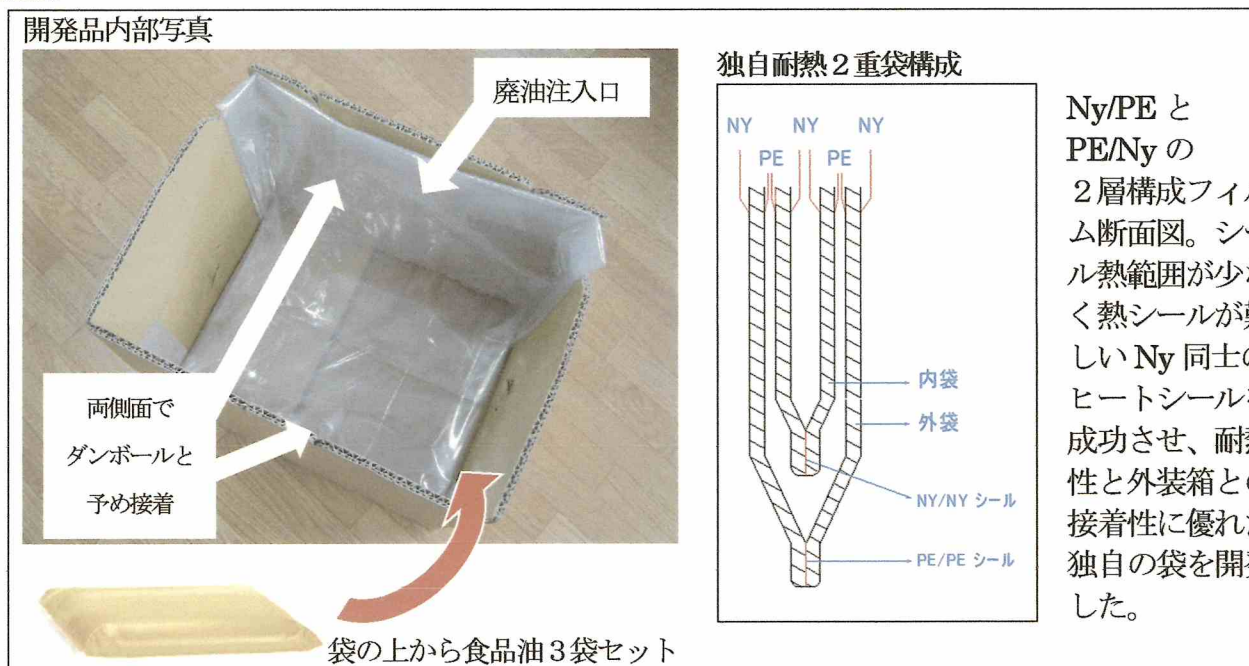
<背景>



最近では



<開発品>



【記載注意事項】

- この説明書は、審査用、展示用カードとして用いられますので必ずご記入下さい。
- 従来のもの(方法)に比し、どこを(何を)どのように工夫したか、要点を判り易く図または写真でご説明下さい。
- 改良工夫箇所が多くある場合、要点をしぼってご記入願います。
- この内容説明書は出品申込書と一緒に、令和3年9月21日(火)までに事務局へ提出して下さい。